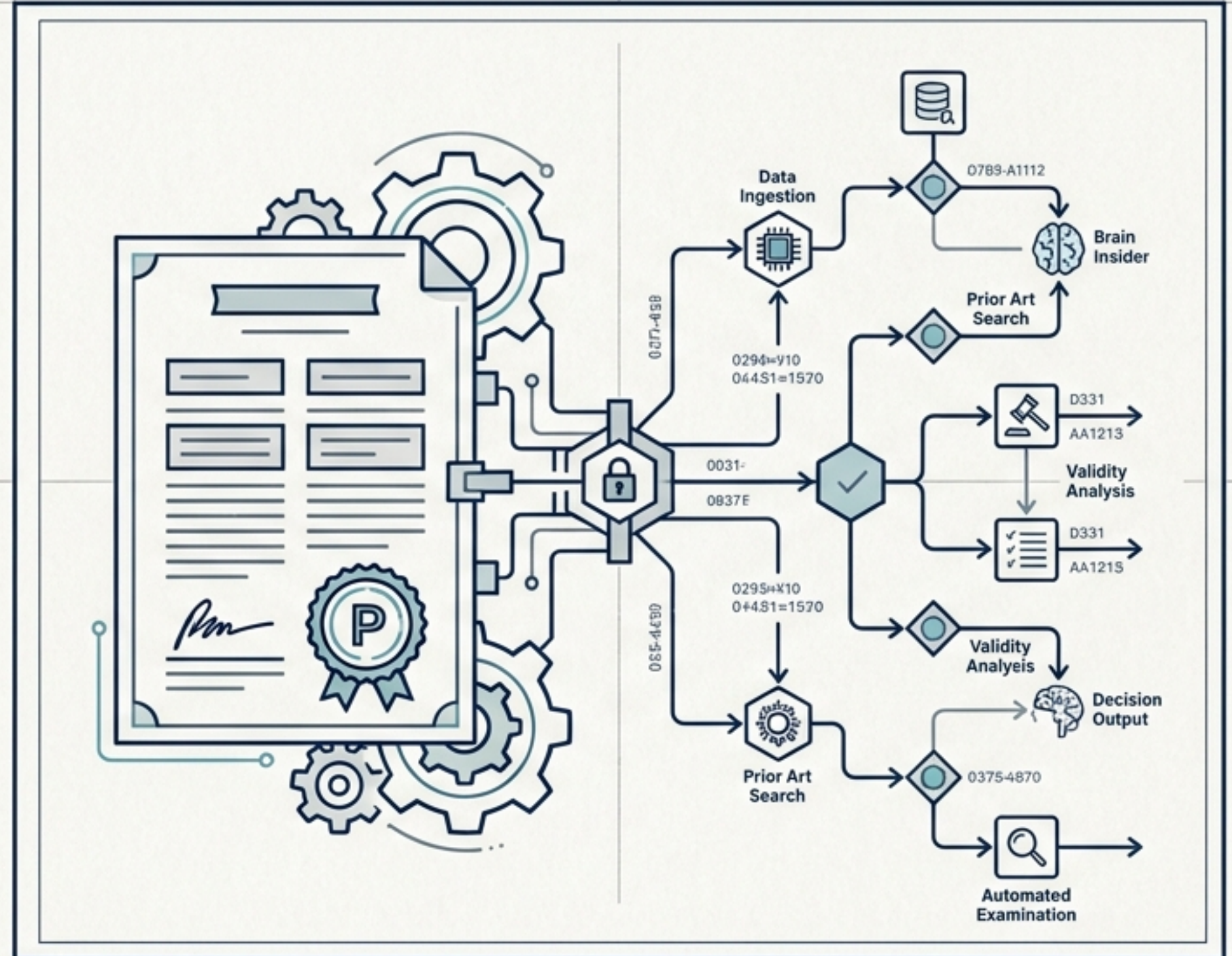


The Blueprint of Intelligent Governance

五大特許庁（IP5）における最新の
AI活用動向とガバナンス比較



Executive Summary:

AI活用における「五庁の収斂」

01.

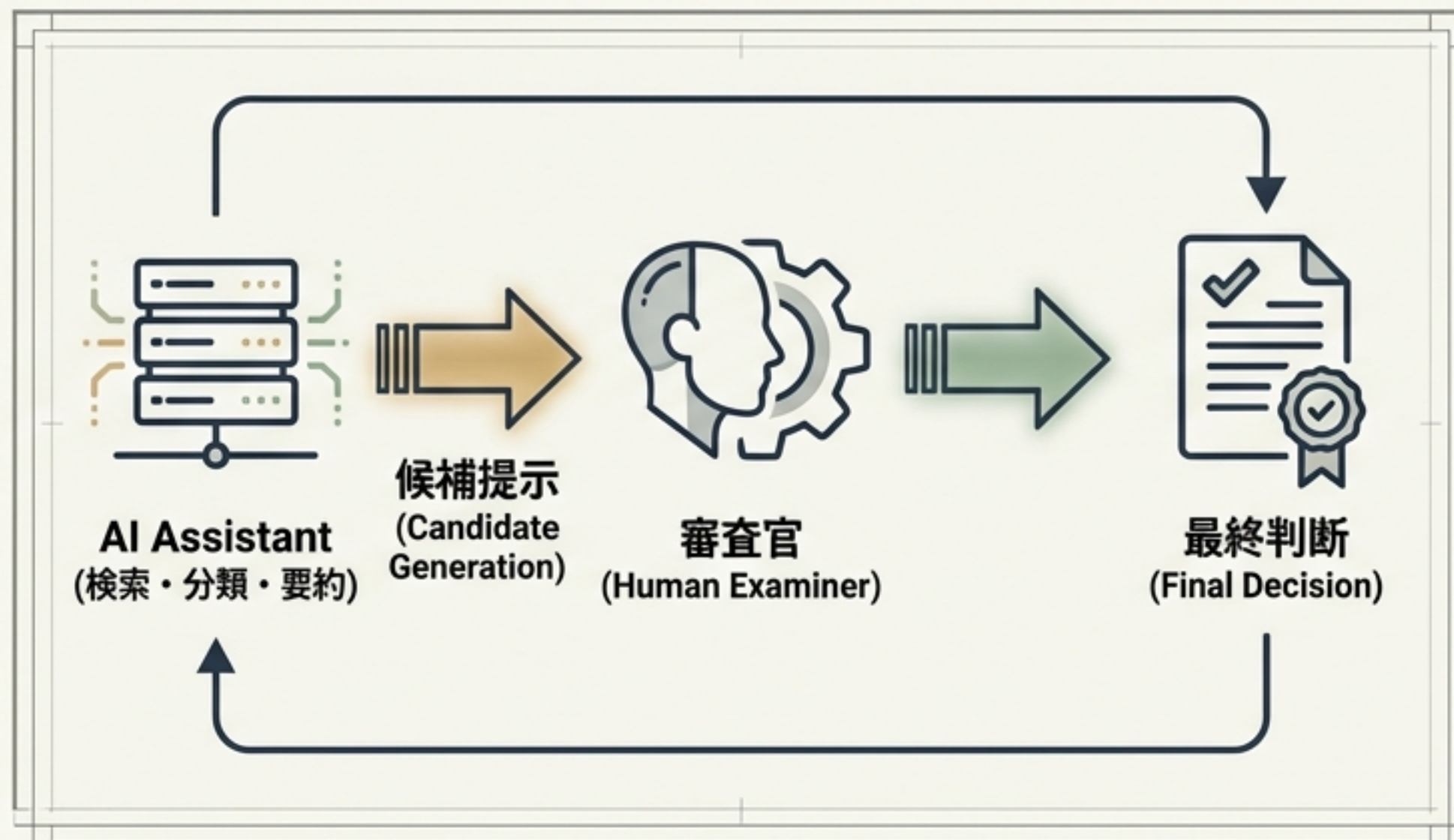
補助利用への収斂

自動決定ではなく、検索・要約・形式チェックを通じた「審査官の認知負荷軽減」が五大庁の共通目標。

02.

ハイブリッド技術構成

単一モデルへの依存を避け、意味検索、画像認識、ルールベース、そして特化型LLMを組み合わせたアーキテクチャへの移行。

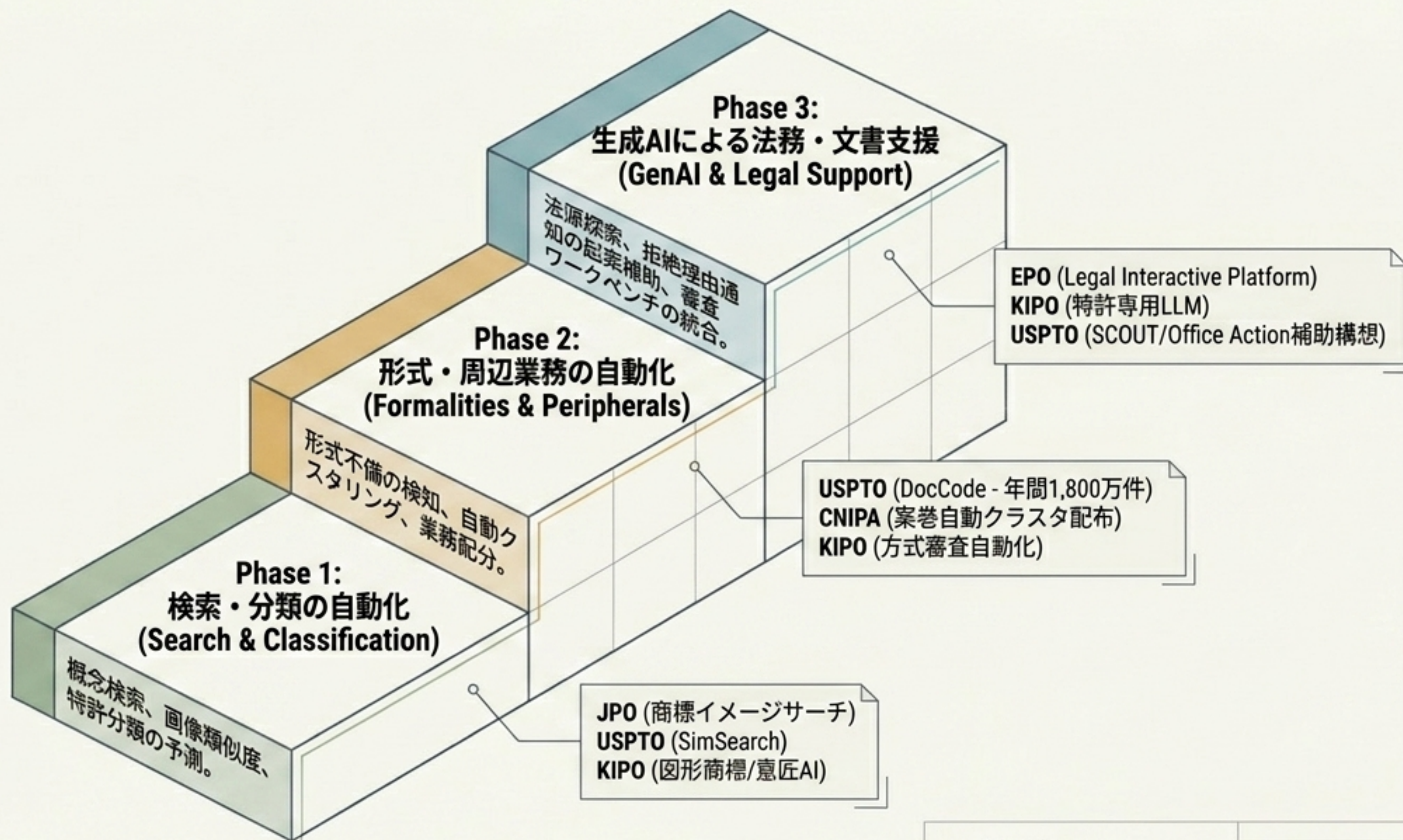


03.

ガバナンスの差異

AI導入の「技術力」以上に、透明性・ログ記録・説明可能性をどう制度化するかにおいて、各庁の戦略的ポジションが明確に分岐。

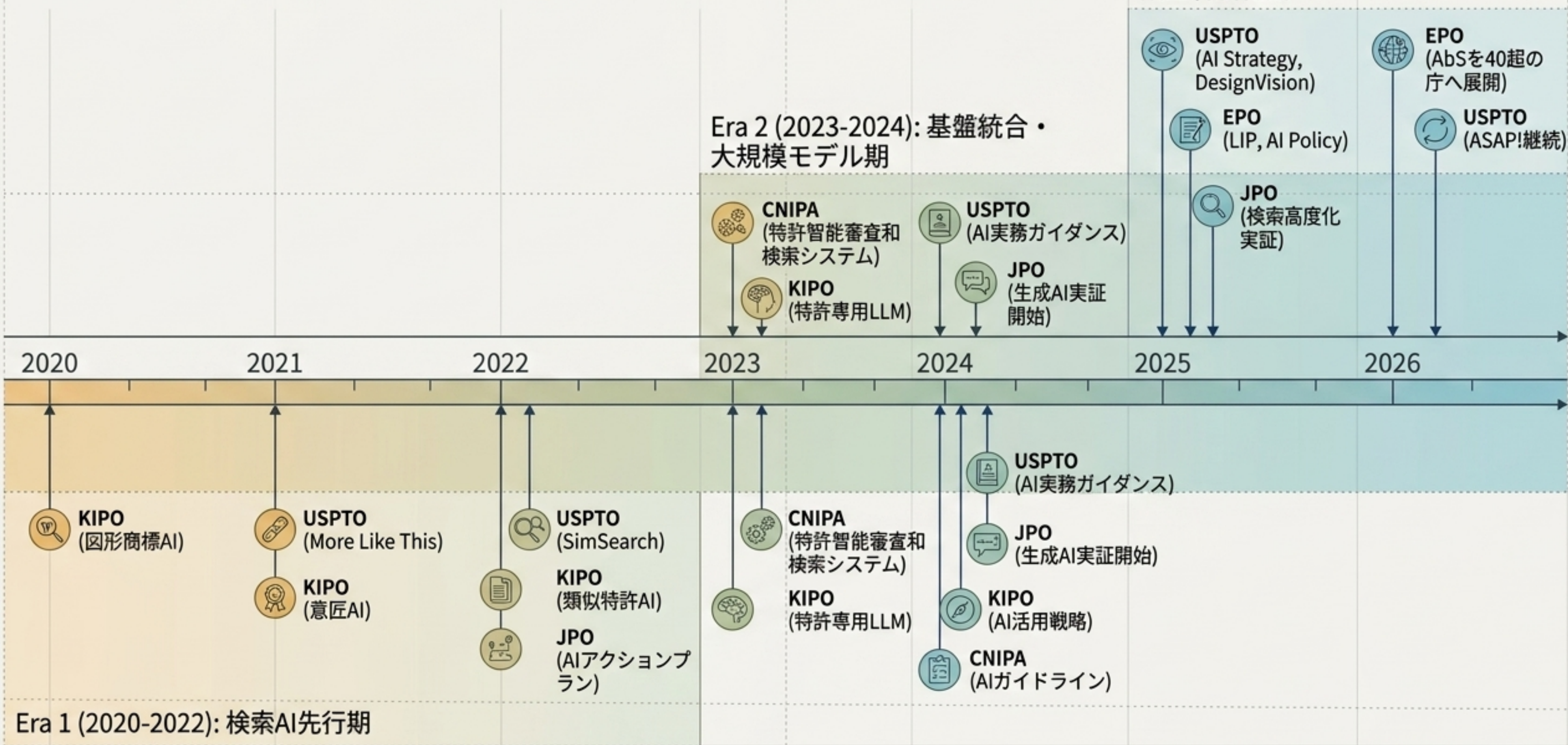
行政AIの「3つの進化フェーズ」



IP5 AI導入マイルストーン (2020-2026)

Era 2 (2023-2024): 基盤統合・大規模モデル期

Era 3 (2025-2026): ガバナンス・生成AI制度化期



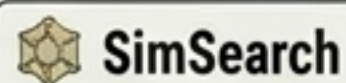
The Diagnostic Matrix: 五大特許庁AI導入 比較総覧

特許庁	注力用途	技術アプローチ	公開ガバナンス/透明性	戦略的特徴
JPO	分類, 概念検索, 画像	BERT, ハイブリッド	 (個別公開不足)	慎重な段階的導入 (導入フェーズと実証の 厳格な分離)
USPTO	先行技術, DocCode, 意匠	LLM, ルールベース	 (検索履歴の公式記録)	「透明性と記録」の 制度化リーダー
EPO	概念検索, 法務支援(LIP)	生成AI, リスクベース管理	 (厳格なAI Policy)	リスクベースの 「厳格なAIガバナンス」
CNIPA	語義検索, 自動振分け, 翻訳	大模型(LLM), 画像認識	 (推理結果は直結させず)	大規模データと 「システムの統合」の覇者
KIPO	専用LLM, 類似特許, 方式審査	特許専用 ハイパースケールAI	 (内部運用特化)	庁内データによる 専用LLMの先行実装

USPTO

「透明性と記録」の制度化リーダー

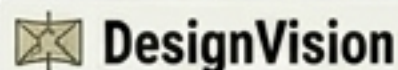
Key Tools



SimSearch

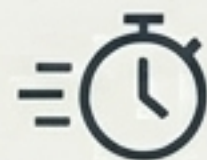


DocCode Quality Control



DesignVision

KPIs



SimSearch:
数時間(PLUS)から
秒単位へ短縮 ➡



DocCode:
年間約1,800万
文書レビュー ✓

Architecture of Transparency

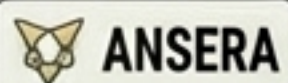


**Key Insight: 外部説明可能なAI審査支援をもっとも制度化。
Augment-not-replaceの徹底。**

EPO

リスクベースの「厳格なAIガバナンス」

Key Tools



ANSERA

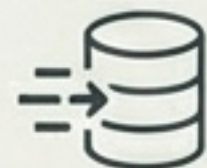


ANSERA-based SEARCH (AbS)

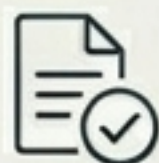


Legal Interactive Platform (LIP)

KPIs

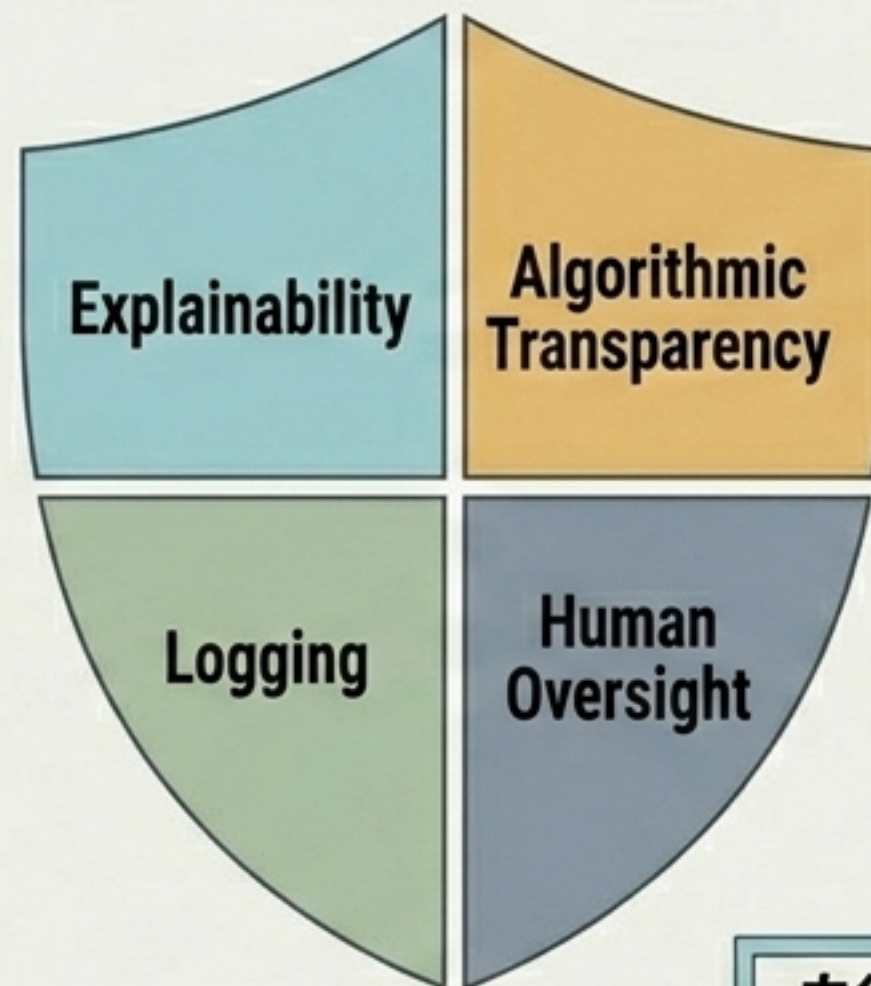


AbS: 40超の国内庁、
2,500人超の審査官へ
展開



LIP: 約6,000ページの
法令等を対象、170社
規模のパイロット

2025 AI Policy



自律学習を排し、元文書
リンクを返すことで幻覚
(ハルシネーション)を防止。

LIP Architecture



CNIPA

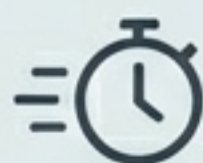
大規模データと「システムの統合」の覇者

Key Tools

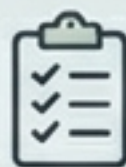
 特許智能審査和検索系統

 大模型検索(Large-model retrieval)

KPIs (庁全体成果)



発明特許平均審査期間:
15.5か月

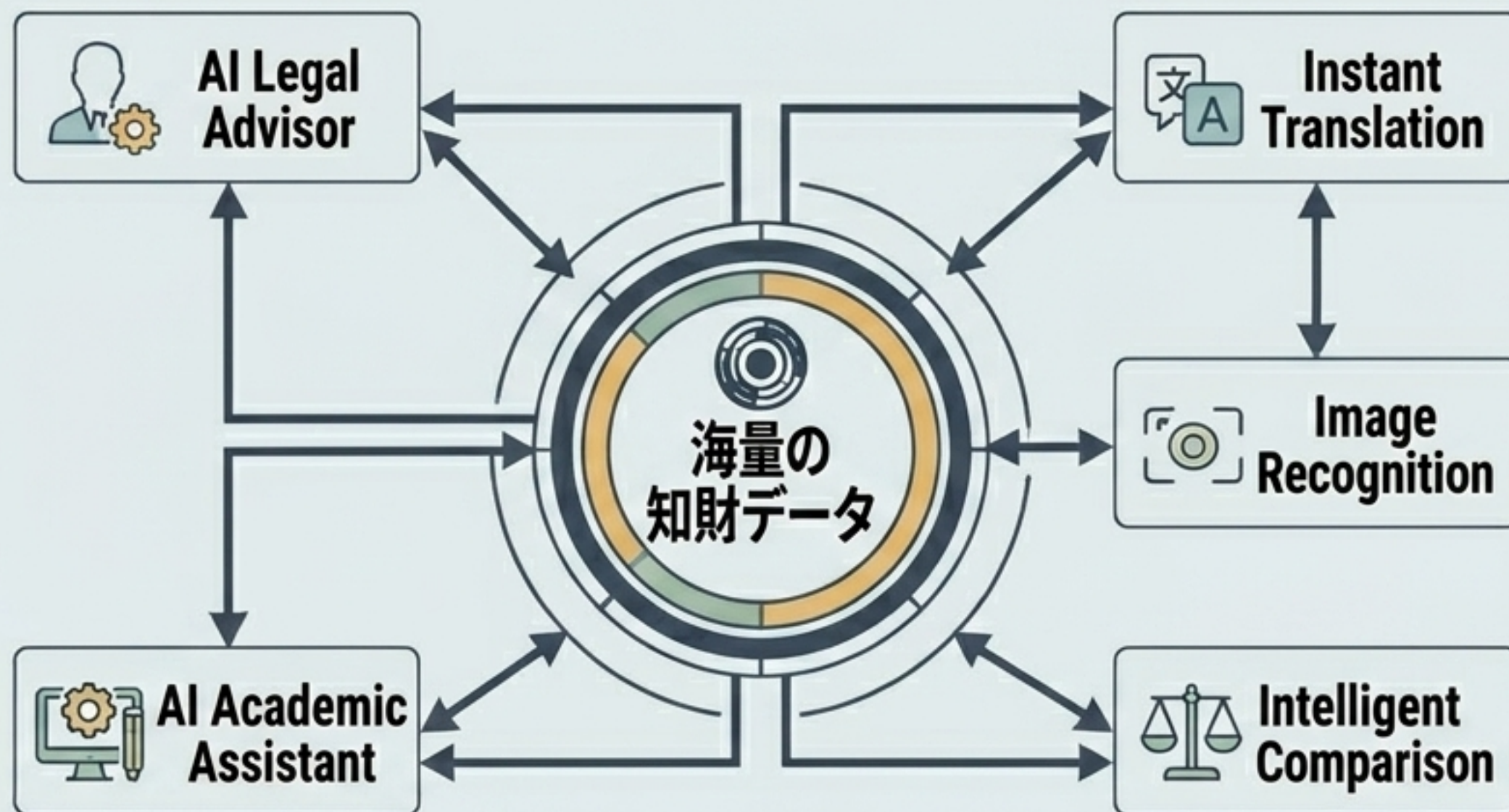


審査結論正確率: 95.2%



品質満足度: 86.8%

Platform Integration Blueprint

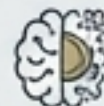


厳格なルール: AI推理結果は
審査意見として直接使用不可

KIPO

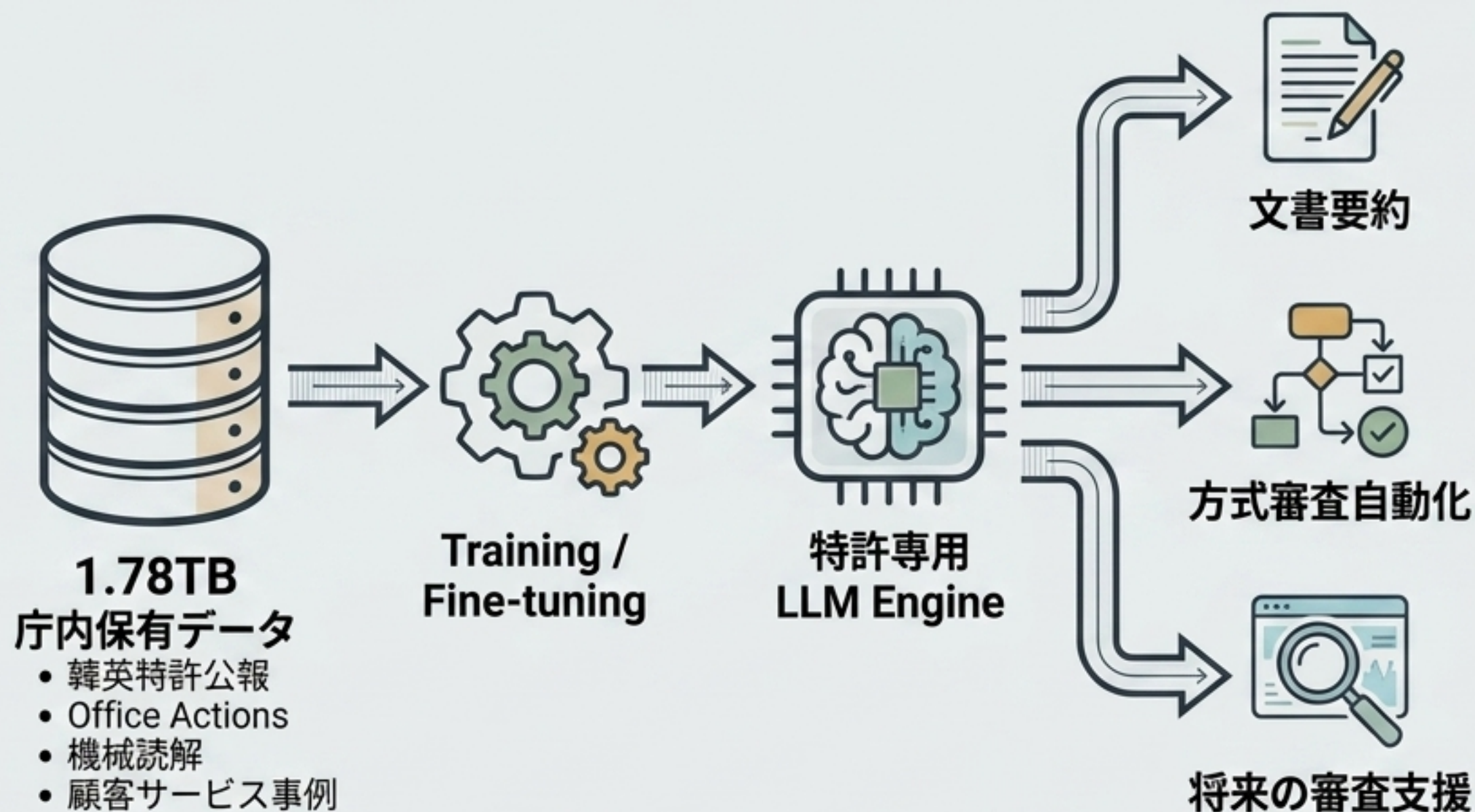
庁内データによる 「特許専用LLM」の先行 実装

Key Tools

-  AI-based search system
-  特許専用 Hyperscale LLM

Strategy Focus

2023～2027年AI活用特許行政革新ロードマップ。LG AI Researchとの共同開発。



Key Insight: 外部公開データだけでなく「内部の業務データ」を積極利用。技術的先進性は高いが、公開ガバナンスの厚みは発展途上。

JPO

リスクを切り分ける 「慎重な段階的導入」

Key Tools

概念検索・ランキング

図面類似提示

商標イメージサーチ

KPIs

商標イメージサーチ:
約7割精度



従前比で倍以上の
検索精度向上期待



Gateway Model Diagram

Zone 1: 技術実証フェーズ (PoC)

Zone 2: 導入フェーズ (Implementation)



Strict
Evaluation
Gate

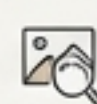
特許分類付与



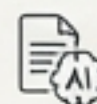
先行技術調査①
(概念検索)



先行技術調査②
(図面類似提示)
[2025年導入へ移行]

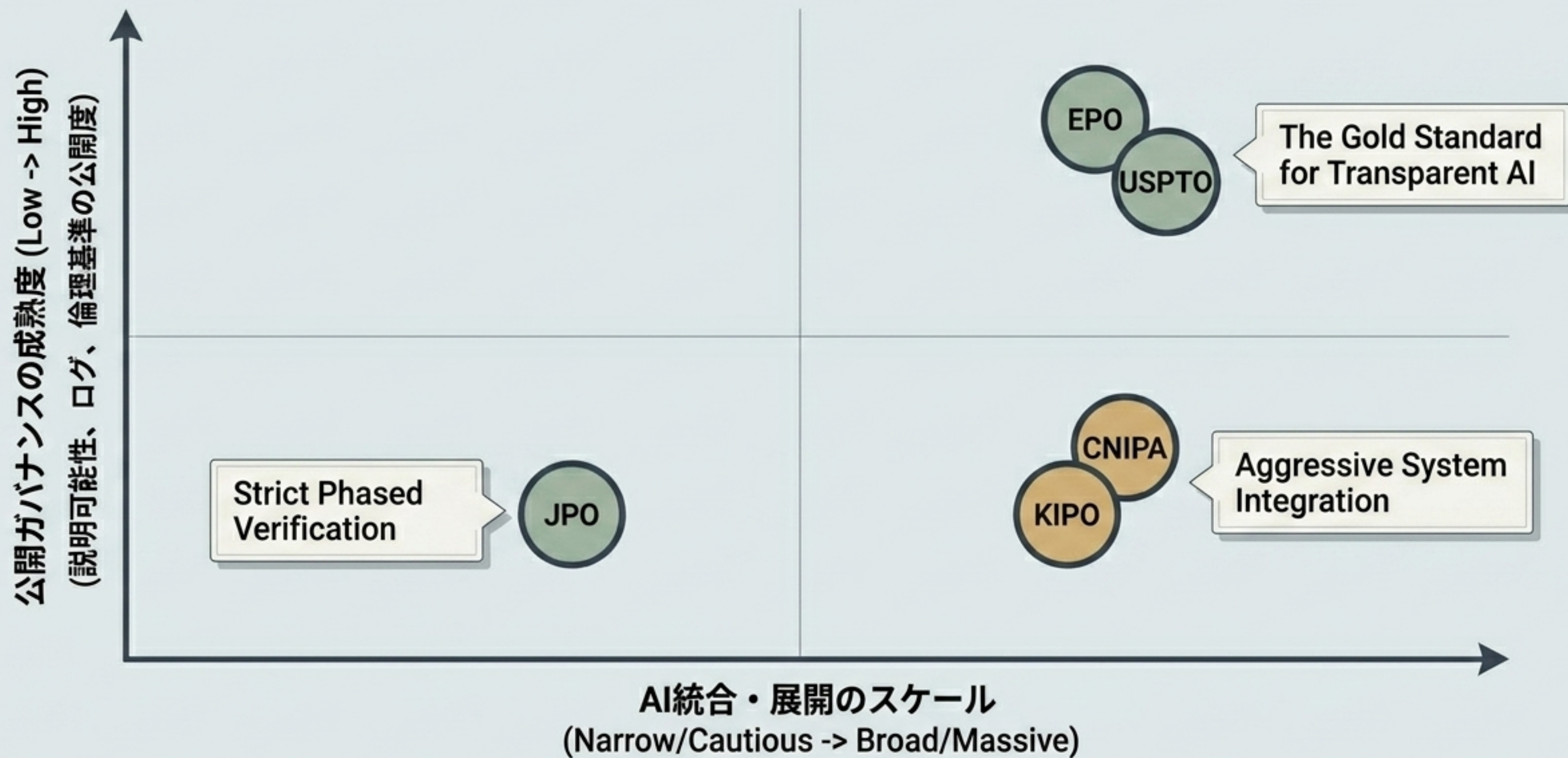


行政事務・審査業務
向け生成AI
[実証中]



Key Insight: 秘密情報を含む生成AI利用に対し、
政府方針を注視する安全側に倒れた設計。

[Aha Moment] ポジショニング・マップ：能力拡張 vs ガバナンス



運用上の重要課題と「4つの主要リスク」



政策的示唆：高信頼AIに向けた5つの推奨アクション



1. ツール別KPIの公開

庁全体のKPIに埋没させず、「検索時間、見落とし率、候補採用率、再検索率」をツール単位で開示する。



2. Traceability（追跡可能性）の標準化

検索・起案工程でのログ保存を義務化し、USPTO / EPO水準の透明性を確保する。



3. リスクベースの段階的導入

高リスク用途（文書起案）と低リスク用途（内部ナレッジ検索・要約）を分離展開する。



4. データ境界の文書化

どの機密データが学習・プロンプトに使われ、何が除外されているかを公衆に向けて明示する。

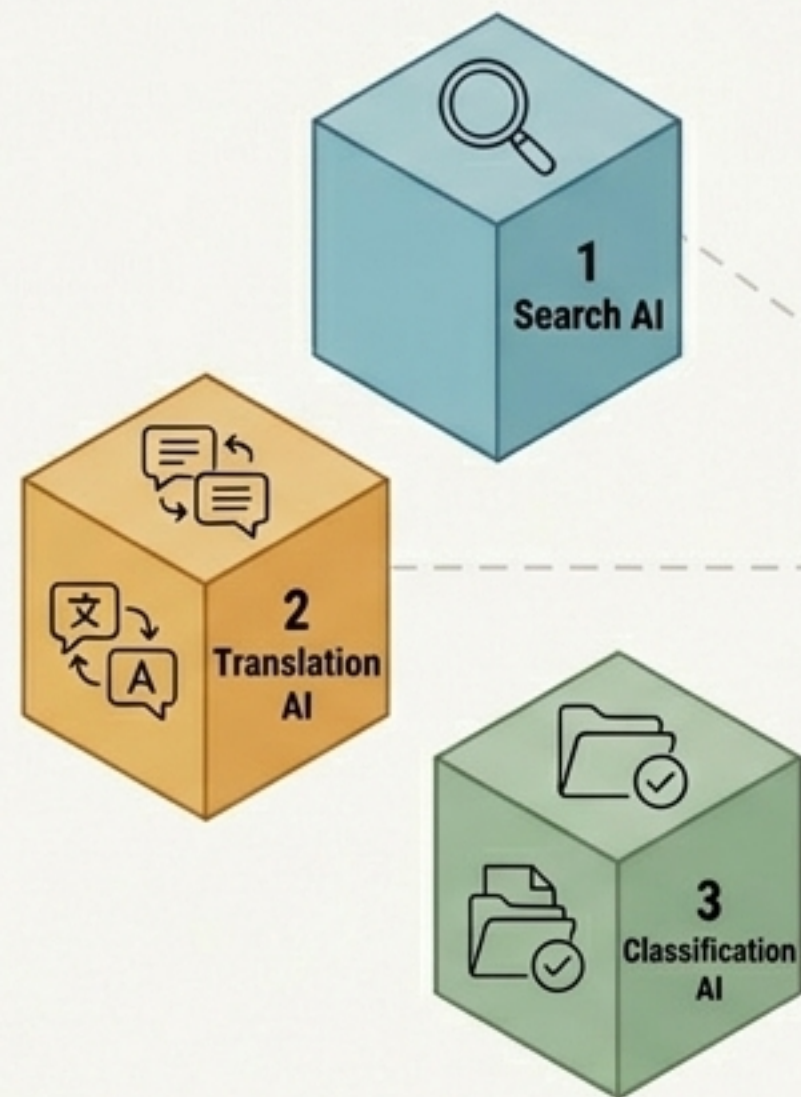


5. IP5共通評価フレームワークの構築

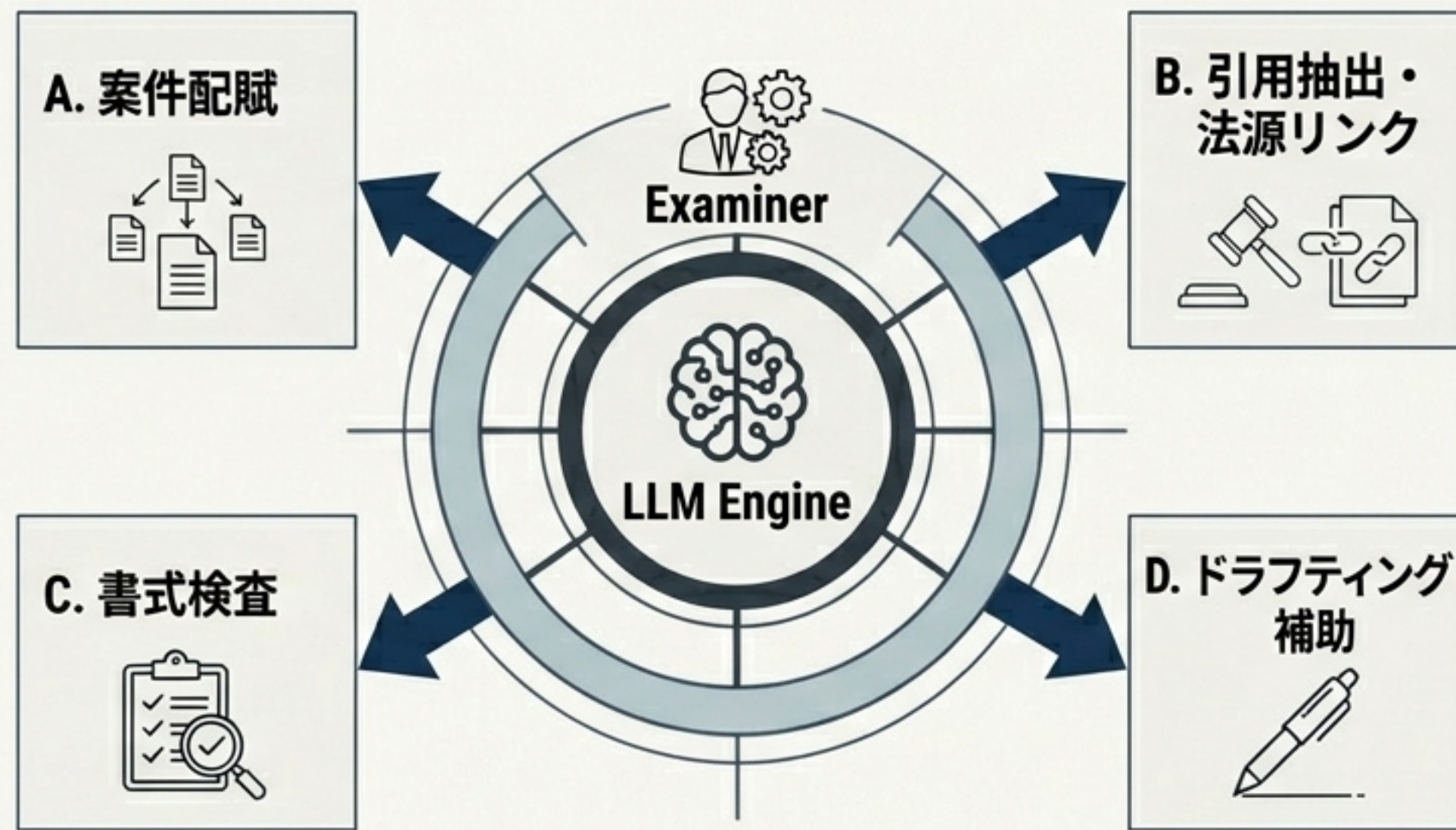
AI発明の法的取扱いだけでなく、審査支援AIの「説明可能性・監査手法」の共通枠組みを議論する。

中長期展望 - 「審査ワークベンチ」への進化

個別AIツール (Standalone Tools)



審査ワークベンチ層 (Unified Examination Workbench)



五大特許庁が最終的に競うのは、AI技術そのものではなく、
高品質・高信頼の行政サービスとしてAIをどう制度化できるかである。